

令和5年度 東京都立忍岡高等学校 学校経営報告

5 忍高第1533号

令和6年3月31日

校長 造作 聡美

I 教育活動への取組と自己評価 課題と今後の改善策

1 学習指導の充実

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評 価
(1) 生徒の学力向上に資する授業の実践	①都立高校学力スタンダード及び教科指導の重点に基づき、基礎基本を徹底して、進学や就職に必要な学力を定着させる。 ②生徒自らが学習習慣を身に付け、学力伸長を図ることができるように、確認テストや週末課題、単元課題等を計画的・継続的に実施する。 ③よりよい授業を目指して、相互授業参観や情報・意見交換を積極的に行う。 ④毎学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を活用する。	(1) 学校評価(肯定的評価) ■分かりやすく、よく理解できる授業 生徒 66% 保護者 66% 教職員 88% ■ICTを活用した学習の充実(オンライン授業、オンデマンド配信等) 生徒 60% 保護者 53% 教職員 82% ○授業に関する捉え方は、肯定的だが、生徒と教職員の差が大きい。教職員は、分かりやすい授業、よく理解できる授業とは、どのような授業であるかを常に追求し、同時に、生徒が能動的に、主体的に取り組む授業を、生徒とともに考えていくことが必要である。 ○ICTを利活用した学習の充実度に対する評価は高くはないが、ICTは学びのための一つの手段・道具であるという点に対する認識を明確にし、今後も研修を継続していくことが必要である。 ○新教育課程における観点別学習評価の導入に伴い、定期考査問題の共通化は、全教科・科目で意義のある点を共通認識とする。 ○新教育課程における学校設定科目や探究学習では、進路との関連を踏まえた内容とし、履修指導の充実を図る。
(2) 生徒が主体的に取り組む対話的で深い学びによる学力の伸長	①授業においては、講義・説明、実技、実習以外にも、思考力、判断力、表現力等を育成するための様々な学習方法を工夫し、生徒の関心・意欲、自ら学ぶ姿勢を高め、学力の伸長を図る。 ②わかる授業、深める授業を助ける手段の一つとしてICT機器やデジタル技術を活用した教材等も積極的・効果的に利用する。 ③生徒の自学自習等にもICT機器を効果的に活用する。	
(3) 生徒の進路希望に応える教育課程の編成・実施と履修指導の充実	①新学習指導要領に沿った教育課程の完成に向けて、分掌間、教科間の相互連携を図り、校内体制を充実させる。 ②進路実現を果たす履修指導を充実させ、進学に必要な実力を伸ばす講座を設置して大学入学共通テスト等への対応を図る。 ③生徒が自らの能力を高め、より良い進路選択ができるように、生徒・保護者との共通認識を深め、実力を伸ばす履修指導を行う。	

【課題】

- 「主体的・対話的で深い学び」による学力伸長のための授業研究及び改善
- ICT機器の利活用を含めた生徒の自主的な学習習慣の確立・定着と進学を目指す学習への支援
- 平日90分以上の家庭学習習慣の定着に向けた指導の継続

【今後の改善策】

- 教務部及び授業改善PTを中心とした個別最適な学びを見据えた授業改善への取組
- 積極的な相互授業参観と意見・情報の共有・交換や、教科横断的な内容の授業実施による授業改善

◎思考力、判断力、表現力を伸長する授業実践に資する校外での研究・研修の積極的な活用

2 進路希望の実現

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評 価
(1) 「3年間の進路指導計画／年次別計画とテーマ」に基づく組織的な進路指導	①「3年間の進路指導計画／年次別計画とテーマ」に則ったキャリア教育の実施と進路手帳やデジタルツール等を活用した生徒自身の自己管理能力を育成する。 ②進学に向けた適切な模試等の実施と分析を行い、デジタルデータを活用して進路指導を可視化し、教職員間、生徒、保護者で情報を共有する。 ③科目選択に関する履修指導、学校選択や受験方法等に関する進路指導を通じて、生徒が一つ上の目標に粘り強く挑戦する力を育成する。	学校評価(肯定的評価) ■進路情報の充実 生徒 65% 保護者 54% 教職員 70% ■十分な進路指導体制 生徒 70% 保護者 63% 教職員 76% ■高大連携活動の充実 生徒 52% 保護者 40% 教職員 53% ■検定等への機会・意欲 生徒 66% 保護者 57% 教職員 82% ○進路指導に関して、肯定的意見が減少している。教職員の充実度もやや低い。進路指導の根本的見直しが必要である。 ○保護者の満足（理解）度が高くない。高大連携活動や検定等について保護者にも直接情報が伝わるように、ICTを活用していく。 〔検定・資格取得合格状況〕 (学外履修の単位認定あり) □実用英語技能検定（準1級・2級・準2級）21名 □日本漢字能力検定（2級・準2級）10名 ※家庭科関係の検定 「5 生活科学学科の特色ある教育活動の推進」参照
(2) 大学進学への意欲向上に資する補習・講習と進路行事の充実	①大学進学希望者等への講習や日常的な補習を計画的に実施し、自習室や質問相談コーナーを活用した学びの機会を充実させる。 ②一日 90 分以上の家庭学習習慣を定着させ、生徒の実力を育成する。 ③出前授業や高大連携事業を活用して、進学や学習への意欲を喚起し、大学受験への意識と意欲を高める。	
(3) 資格取得による能力・適性の伸長	①各種検定や資格取得、コンクールへの応募等を奨励し、生徒の能力や適性を伸ばすことによって自信をもたせ、進路希望の実現に挑む態度を育成する。 ②単位制高等学校として、学校外の学修成果も卒業に必要な単位として認定できる制度を周知し、効果的に活用する。	

【課題】

- 「3年間の進路指導計画／年次別計画とテーマ」に沿ったキャリア教育に基づく進路指導と全教職員の当事者意識の醸成
- 進路選択の幅を広げる学力を育成するための進学サポート体制の継続
- 資格取得に挑戦する意欲の喚起と実践、それに伴って得られる能力・適性の伸長と自信の育成

【今後の改善策】

- ◎進路行事やキャリアガイダンスと履修指導とを関連づけた計画の修正と実状に合った情報提供
- ◎進路指導部主導を基本とした全員体制の進路指導の推進（情報共有・講習・模試・検定・進路相談）
- ◎実力テスト・外部模試実施後の結果分析とデジタルデータを活用した指導と面談の実施

3 人権に配慮した生活指導

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評 価
(1) 生活指導の充実と人権を尊重する態度の育成	①都立高校生活指導指針に基づき、あいさつ、身だしなみ、遅刻防止等の指導に全教職員で取り組む。 ②体罰の禁止・根絶やいじめの未然防止・早期発見・早期対応について全教職員で取り組む。 ③薬物乱用防止やSNS等に関する指導を行い、規範意識の向上と情報モラルや個人情報等の適切な取り扱いに関する指導を行う。 ④人権尊重について集会や学校行事等を通して考えさせる。	学校評価（肯定的評価） ■十分な生活指導の実施 生徒 73% 保護者 65% 教職員 64% ■人権に関する学習の充実 生徒 61% 保護者 49% 教職員 62% ■日本の伝統文化や国際理解に関する学習の充実 生徒 81% 保護者 75% 教職員 88% ■特別活動の充実度 生徒 64% 保護者 57% 教職員 85% ○生活指導や人権学習の充実は、生徒と教職員は同程度であるが、保護者がやや低い。保護者への情報発信を確実に実施する。また、前例踏襲の画一的な指導方法では効果的でないことを認識し、指導について丁寧に説明して理解を得、効果があがる方法を常に検討する必要がある。 ○人権はあらゆる場面で尊重するものであることを教職員が実践することで、生徒の育成につなげていく。 ○日本の伝統文化理解に関しては、生徒、保護者、教職員ともに肯定的で、本校の特色として継続していく。 ○特別活動の充実度は、感染症の扱いによる制限の変化が理由の一つではあるが、生徒の評価は高くない。
(2) 日本の伝統・文化の良さを発信する能力や態度の育成	①教科「日本の伝統文化」における授業内容と成果発表の充実を図る。 ②JET等を活用した国際理解教育を推進するとともに、ドイツ語、韓国語、フランス語、中国語の講座を通して文化的・人的な交流を行う。 ③「海外学校間交流推進校」として、海外の学校との交流の機会を活用し、日本の魅力を発信する生徒の活動を充実させる。	
(3) 学校行事・部活動を通じた生徒の主体性の伸長と活力ある学校づくり	①体育祭・文化祭・球技大会では、全生徒が主体性をもって行事に参画する意欲と実施を支援し、行事満足度を高める。 ②自己肯定感を育む特別活動の活性化を図り、部活動への参加を推奨する。	

【課題】

- 生活指導全般、人権教育への全教職員による組織的な取組の強化
- 日本の伝統・文化に関する教育活動の成果を発表する機会の設定
- 生徒の主体的な取組による特別活動の活性化

【今後の改善策】

- ◎生徒の安全確保と保護者や地域から信頼される指導内容の徹底への組織的な取組
- ◎人権や生命の尊重を重視した教育活動全般における取組と生徒の健全育成の推進継続
- ◎日本の伝統・文化に関する教育活動の継続実施と成果を発信する機会の創出
- ◎従来の方法の継承と新しい方法の創出との両面から特別活動を活性化する生徒の主体的な取組への支援

4 健康・安全教育の充実

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評 価
(1) 心身の健康を増進する体力の向上と相談体制の	①規則正しい生活による基本的生活習慣を身に付けさせ、生徒自らが心身の健康を維持・	学校評価（肯定的評価） ■健康・安全に関する学習の充実

確立	管理できる態度を育てる。方法の一つとして「都立学校版コンディションレポート」を適宜活用する。 ②スクールカウンセラーや専門機関と連携し、特別な支援を必要とする生徒への対応や、生徒のメンタルヘルス及びSOSの出し方に関する教育に全校で取り組み、生命尊重の意識と態度を根付かせる。 ③体力テストの結果分析を踏まえ、筋力、走力に資するトレーニング等を取り入れ、TOKYOACTIVE PLAN for studentsに基づく生徒の体力の向上を図る。 ④食育指導計画に基づいて食育の充実を図り、全校生徒の食習慣や食生活に対する意識を高め、健康な体づくりを推進する。	生徒 67% 保護者 50% 教職員 82% ■教育相談の十分な環境整備 生徒 57% 保護者 53% 教職員 85% ■外部・地域と連携した防災教育の推進 生徒 64% 保護者 45% 教職員 97% ○健康・安全教育、教育相談、防災教育とも、生徒の満足度は低い。保護者は「わからない」という回答が多い。生徒・保護者への周知が十分ではない点を早急に改善していく必要がある。 ○教育相談では、全校生徒にSC 来校日の周知を図った。専門医派遣事業による教員研修も実施し、精神科医の専門的な意見や助言は非常に効果的であった。 ○防災訓練では、自助、共助の意識を高め、高校生が地域に貢献する心構えも育成していく。 ○2年目となった安全教育推進校の取組も多岐にわたったが、関心は薄かった。人権に結び付くという目的的理解を高める必要がある。 ○生徒自身のよる校内環境整備の意識を高めるために、清掃頻度の増加が必要である。
(2) 学校事故の未然防止と校内美化	①生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる校内体制を維持し、学校事故ゼロを目指す。 ②防災教育を推進し、消防署や警察署、地域住民等との連携を強化した避難訓練や防災訓練を通して自助、共助、公助の精神を培う。 ③「安全教育推進校」としての取り組みを通して、学校全体で生活安全への知識や意識を高め、安全な生活を送る態度を育成する。 ④校内環境美化の意識を高め、生徒中心の美化活動に努める。	

【課題】

- 遅刻や欠席が多い生徒、特別な支援が必要な生徒等の早期発見・対応
- 新型コロナウイルス感染症への対応をしながらの学習環境・機会の確保と基本的な予防対策の継続

【今後の改善策】

- ◎教育相談・特別支援教育委員会等による生徒情報の共有と家庭や外部機関との臨機応変な連携
- ◎生徒自らの健康管理に役立つ日常生活習慣の指導や健康・安全に関する学習の推進と継続
- ◎基本的な感染症対策（健康観察、手洗い・手指消毒、換気等）の継続実施

5 生活科学科の特色ある教育活動の推進

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評 価
(1) 生活産業を担うスペシャリストの育成	①生徒に専門的な技術・技能を確実に修得させ、資格取得を推奨するとともに、地域社会や生活産業に貢献する人材を育成する。 ②大学、専門学校や地域、産業界およびボール・ポワレ高校との連携を深め、高度な授業と目標達成に向けて努力する力を育成する。	学校評価（肯定的評価） ■家庭科の専門学科として特色ある教育活動の実施 生徒 62% 保護者 64% 教職員 94% ○生活科学科の教育活動について、生徒 33%、保護者 34%が「わからない」と回答。普通科・生活科学科併置の一

	◎特別専門講師を招聘した専門性の高い授業 長期4講座・短期14講座 ◎産業界との連携 インターンシップ実施 ◎大学や専門学校、ポール・ポワレ高校との連携 ◎生活科学科卒業生による進路講話の実施	つの学校であることを踏まえ、校外だけでなく校内（普通科生徒・保護者）に向けた情報発信も活性化する。 ○授業時間外での指導も含めて生徒の意欲と技術を向上させ、実力を伸長させることができた。目標を定めて積み上げる検定級の取得は、幅広い知識・技術の習得、自主自律の精神の涵養、自信に結び付いている。実技が苦手な生徒にも、苦手意識の払拭、努力の成果を実感する機会となっている。 ○課題研究の発表は3年間の集大成となる。進路活動にも活かせるテーマ設定や研究内容の深化には、2年次からの指導を重視し、自ら課題を見つけることが必要である。全員の取組を『課題研究報告集』にまとめている。 [検定合格状況] ・文書デザイン検定 1級2名 ・家庭科技術検定 - 食物調理技術検定1級19名 - 被服製作技術検定1級6名 - 保育技術検定1級2名 - 三冠王（技術検定三種目1級）0名
(2) 学習成果の発表と活動状況の発信	①文化祭、課題研究発表会等を通じて広く学習成果の発信を行うとともに、探究学習である課題研究の発展と生活科学科の特色化を図る。 ②生活科学科への入学志望者の確保を図ることを目的とする広報活動(説明会、中学校訪問、チラシ、HP、メディアの活用)や体験授業を充実させる。 ③「社会の人材を活用した教育を推進するための授業支援研究指定校」の取り組みを通して、生活科学科の可能性を広げ、それを発信する。	

【課題】

- スペシャリストの育成に資する知識・技能の育成と検定や資格取得、コンクールへの挑戦
- 課題研究等の学習成果を発表する機会の確保や進路への活用
- 国際交流も活用した生活科学科の特色づくりと入学志望者の確保

【今後の改善策】

- 特別専門講師や外部機関と連携した専門性の高い授業の継続による学びに向かう意欲の維持・上昇
- 中学生対象の授業体験での中学生への指導機会の設定、文化祭や学習成果発表会での発表機会の設定
- 他の家庭科専門学科との違いを明確化し、在校生の姿を伝える広報活動

6 広報活動の充実と開かれた学校づくりの推進

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 特色ある教育活動の周知と広報活動の充実による入試倍率の向上	①授業公開、学校見学会、学校説明会を通じて本校の特色を伝え、体験授業や個別相談を丁寧に行い、学校全体で募集活動に取り組む。 ②外部説明会、出前授業、中学校での説明会等に参加する体制を学校全体で協力して築く。 ③在校生の協力も得ながら、中学校訪問も積極的に行う。 ④ホームページで日々の教育活動や入試関	学校評価（肯定的評価） ■教育活動・特色の十分なPR 生徒63% 保護者72% 教職員78% ■地域との連携 生徒53% 保護者46% 教職員59% ○広報、地域との連携は、生徒と教職員の評価は同程度、地域連携は保護者の39%が「わからない」と回答。 ○生活科学科が公式インスタグラムを開設、普通科も実現にむけて検討

	連情報を積極的に発信し、志望者増につながる広報活動を学校全体で展開する。	が必要。 ○ホームページ 更新回数 230
(2) 地域との連携によるボランティア活動の推進と学校施設開放事業の実施	①地域イベントへの参画、警察・消防・幼稚園や小中学校等と連携したボランティア活動を通して地域に貢献し、豊かな心を育成する。 ②地域の公園等での清掃や地域防災訓練等の地域行事に積極的に参加する機会を設ける。 ③校庭開放(日曜)、公開講座を活用し、地域に開かれた学校づくりをする。	

【課題】

- 感染症により自粛していた中学校への直接の訪問による募集対策
- 本校の特色や魅力を知ってもらうための広報活動への学校全体での取組と多様な手段の活用
- 地域との連携機会の開拓

【今後の改善策】

- 実際の来校を促進するための中学校等への訪問、学校外での説明会への積極的な参加
- 都立高校PR事業を活用した動画の作成やホームページを活用した情報発信
- 近隣地域との情報交換や生徒のボランティア活動への参加方法の工夫

7 組織的な学校経営と経営企画室の参画

教育活動の目標と方策	具体的な取組	評価
(1) 組織的な学校経営と協働体制の充実	①企画調整会議を中心とした組織的な学校経営と全教職員の協働体制による円滑な校務運営を推進し、学校における課題の解決を図る。 ②個人情報の適切な管理、体罰防止、会計事故防止等、教職員の服務事故の未然防止に努め、都民から信頼される学校づくりを行う。 ③「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、計画的な仕事の進め方を実践して業務の効率化を図り、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。 ④ICT機器やデジタル技術を活用して、ペーパーレスや時間短縮が可能なことへの取り組みを学校全体で推進する。	学校評価（肯定的評価） ■施設・設備の整備 生徒 56% 保護者 68% 教職員 85% ■教員の働き方改革への取組 保護者 41% 教職員 53% ○空調工事が完了し、冷暖房設備が充実した。 ○教員の働き方改革は、教員自身が進んでいると捉えていない。業務の継続、削減、新規開始を「スクラップ＆ビルド」でバランスをとる必要がある。 ○補正予算の有効活用で、校内環境の整備・改善を推進した。 ○入学者選抜事務は、適正に、事故なく実施できた。
(2) 経営企画室における学校経営参画の促進	①計画的な予算執行、適切な施設・設備の維持管理、迅速な事務処理等を行い、効率的な学校経営を実現する。 ②入学者選抜に係る事務については、適正でミスのない業務を遂行するために、教育職員と経営企画室職員との連携体制を確実に整える。	

【課題】

- 円滑な校務運営を推進するためのより効率的な企画調整会議の運営
- 働き方改革の推進と長時間勤務を解消するための業務遂行方法の改善
- 学習環境の整備に向けた施設の維持・保守への迅速な対応のための連携

【今後の改善策】

- ◎主幹会議や拡大分掌部会の定期的な開催による、円滑な連絡・調整、会議の効率化、迅速な意思決定
- ◎電子データの積極的な活用による情報の交換・共有の効率化
- ◎学校経営計画に沿った予算執行と学習環境・職場環境の向上に資する施設・設備の整備

Ⅱ 令和5年度の重点目標・数値目標への取組と自己評価

○：達成 △：未達成

重点目標・数値目標	取 組	自 己 評 価
(1) 四年制大学及び短期大学への進学者数 100 名以上	教科、進路指導部、年次担任が連携して、全てのタイプの入試に対する指導。 四大 101 名 短大 9 名 大学入学共通テスト出願者 88 名	四大・短大進学者数 110 名 ○ (令和4年度：114 名) 大学入学共通テストへの出願者数微増。(令和4年度：80 名)
(2) 卒業時の進路未決定者(浪人等を除く) 0 名	最後まで粘り強く対応し、進学準備、アルバイトの者にも指導を行った。	進路の方向が見つかっていない進路未決定者(浪人を除く)0 名 ○ (令和4年度：0 名)
(3) 中途退学者数 0 名	生徒の状況や意思を確認しながら、家庭とも連携して対応した。健康上の理由等やむを得ない場合がある。	中途退学者 9 名 △ (令和4年度：3 名)
(4) 部活動加入率 60%以上	他校との合同練習や大会出場等の機会も増えた。部活動指導員の増員、同好会の新設等もあった。一方で、加入率は若干低下。	部活動加入率 51% △ (令和4年度：55%)
(5) ホームページ更新回数 250 回以上	授業や行事の様子、学校見学会、学校説明会等の案内、部活動の状況、入学者選抜の情報等を発信した。	更新回数 230 回 △ (令和4年度：190 回)
(6) 年間皆勤生徒 20%以上	皆勤生徒数 82 名(3 年次生 29 名 2 年次生 25 名 1 年次生 28 名) 在籍生徒数 627 名	皆勤生徒の割合 13% △ (令和4年度：14%) 3 年間皆勤者 12 名 (令和4年度：18 名)
(7) 学習指導の理解度 生徒の肯定的評価 75%以上	習熟度別授業、少人数授業の実施。学習方法を工夫した授業の実践。計画的・継続的な確認テストや週末課題の実施。	生徒の肯定的評価 71% ○ (令和4年度：71%) 生徒の授業以外の平均学習時間(一日) 120 分以上 13% 90～119 分 14% 60～89 分 18% 30～ 59 分 21% 30 分未満 34%
(8) 学校生活の充実度 生徒の肯定的評価 85%以上	感染症による制限はあったが、5 月後半から通常時程での教育活動実施。	生徒の肯定的評価 71% △ (令和4年度：71%)
(9) 特別活動の充実度 生徒の肯定的評価 75%以上	感染症による制限はあったが、生徒が主体的に感染症対策を徹底した計画立案。	生徒の肯定的評価 74% ○ (令和4年度：74%)

(10) 本校への来校者数合計 (学校見学会、学校説明会、 学校訪問、授業公開等) 2,000 名以上	校内実施の説明会等は、感染症対策のた め、事前予約制。	来校者数合計 1,453 名 ○ (令和4年度：合計 1,717 名)
(11) 入学者選抜の応募倍率 【推薦】普通科：2.50 倍以上 生活科学科：2.20 倍以上 【学力】普通科：1.30 倍以上 生活科学科：1.30 倍以上	全都立高校で男女別募集人数枠の撤廃。 推薦は、普通科・生活科学科とも募集人員 を上回る応募。 学力は、普通科・生活科学科とも7年ぶり に募集人員を上回る応募。取下げ、当日欠 席により、普通科は二次募集実施。普通科 は定員、生活科学科は定員+1 の合格。	【推薦】普通科：1.75 倍 △ 生活科学科：1.90 倍 △ 【学力】普通科：1.05 倍 △ 生活科学科：1.12 倍 △ (令和5年度入学者選抜) 【推薦】普通科：1.81 倍 生活科学科：2.00 倍 【学力】普通科：0.98 倍 生活科学科：0.94 倍
(12) 資格・検定等合格者数 (普通科・生活科学科合計) 100 名以上	受検前の準備を教科で支援(国語・英語・ 家庭)。学外履修の単位認定あり。	合計 48 名 △ 検定・資格取得合格状況は、I の 2・5 参照 (令和4年度：合計 85 名)